

地球を

読む

1面の続き

伊藤元重氏 1951年生まれ。米ヒューストン大助教などを経て93年から現職。著書に「東大名物教授の熱血セミナー 日本経済を『見通す』力」「伊藤元重が語るTPPの真実」など。

TPPが発効した後、日本経済にどのような恩恵をもたらすのだろうか。その恩恵の大きさは、伝統的な手法を使った国内総生産(GDP)の推計値で

製品がより安価で購入できるほか、日本の輸出が拡大する効果などを評価した推計値だ。

この手法を採用した米ペトリ教授らの推計によれば、TPPが発効してから13年で、日本のGDPは約2%引き上げられるという。GDPの規模では約10兆円に相当する。

TPPが関税以外の様々な経済効果が膨らむのは、TPPが関税以外の様々な

経済学で、新たな推計手法が頻繁に使われるようになってきたことは、20年以上前に発効した北米自由貿易協定(NAFTA)が影響している。多くの経済学者が、NAFTAによって米国、カナダ、メキシコの経済を受けた影響を分析したが、その影響も経済効果も、当初考えられていたよりもはるかに大きいことが分かってきた。

グローバル化の動きは、日本の産業のイノベーションにも影響を及ぼす。一般的に、海外への貿易依存度が高い経済ほど、資本や労働を除いた技術革新などによる成長力を測る「全要素生産性」が高くなる傾向があると言われる。

広く恩恵 技術革新呼ぶ

TPPが参加することによって、GDPで測る経済全体の規模がどの程度増えるのかを示すものだ。

ただ、これは何十年前も前に確立された伝統的な推計手法を使っているのに対し、最近では新しい精緻な手法で計測が行われている。TPPに参加すれば、関税撤廃・引き下げの効果に加えて、日本の産業構造が変化し、それが日本経済の成長経路を変えていくことになる。そのような動きも考慮に入れば、TPP

発効してからすぐに大きな経済効果が得られるというよりも、10年、20年かけて、その影響がじわじわと浸透していく。

政策論議では、とりあえず直接的にどのような利益や被害が出てくるのかという近視眼的な議論になりがちだ。しかし、TPPの影響への評価は、より長期的な産業や貿易の構造を決め

分野を対象にしていることが関係している。TPPで直接投資が拡大すれば、域内での産業の分業や貿易の流れにも大きな影響が及ぶ。産業界が「グローバル・バリューチェーン」(付加価値の向上につながる国際分業)と呼ぶものだ。これがさらに進化し、イノベーション(技術革新)活動も刺激される。

こうした効果を、この点を指摘した元ハーバード大学教授のマーク・メリッツ氏にちなんでメリッツ効果

2013年に日本政府は、TPPに参加することで、GDPの約0.66%にあたる3.2兆円程度の経済効果があるとの推計結果を発表した。貿易自由化で関税が撤廃されたり、引き下げられたりして、海外の

存在として、とりえる必要がある。

経済連携協定の影響としては、貿易の量が増えていくほかに、産業内の構造が変化して、より生産性の高い業者が集中が進むことも重要だ。例えば、日本でもTPP交渉に参加する流れと並行して、生産性の高いプロ農家の勢力拡大がみられる。

TPPの影響でさらに重要なのは、国民の意識が変わっていくことだろう。少子高齢化と人口減少という難題を抱える中で、内向き思考では経済は衰退する一方だ。より広い市場とチャンスが国外にあるというところを、多くの国民が認識するべきだ。TPPをきつかに、外向きの思考が広がるよう期待したい。

TPPの影響でさらに重要なのは、国民の意識が変わっていくことだろう。少子高齢化と人口減少という難題を抱える中で、内向き思考では経済は衰退する一方だ。より広い市場とチャンスが国外にあるというところを、多くの国民が認識するべきだ。TPPをきつかに、外向きの思考が広がるよう期待したい。

英文はあすのジャパン・ニュースに掲載する予定です

TPPが発効した後、日本経済にどのような恩恵をもたらすのだろうか。その恩恵の大きさは、伝統的な手法を使った国内総生産(GDP)の推計値で

製品がより安価で購入できるほか、日本の輸出が拡大する効果などを評価した推計値だ。

この手法を採用した米ペトリ教授らの推計によれば、TPPが発効してから13年で、日本のGDPは約2%引き上げられるという。GDPの規模では約10兆円に相当する。

TPPが関税以外の様々な経済効果が膨らむのは、TPPが関税以外の様々な

経済学で、新たな推計手法が頻繁に使われるようになってきたことは、20年以上前に発効した北米自由貿易協定(NAFTA)が影響している。多くの経済学者が、NAFTAによって米国、カナダ、メキシコの経済を受けた影響を分析したが、その影響も経済効果も、当初考えられていたよりもはるかに大きいことが分かってきた。

グローバル化の動きは、日本の産業のイノベーションにも影響を及ぼす。一般的に、海外への貿易依存度が高い経済ほど、資本や労働を除いた技術革新などによる成長力を測る「全要素生産性」が高くなる傾向があると言われる。

英文はあすのジャパン・ニュースに掲載する予定です